

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770500415
法人名	医療法人社団 素耕会
事業所名	富士グループホームほほえみ
所在地	香川県観音寺市観音寺町甲2899-3 (電話) 0875-57-5775

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年1月10日	評価決定日	平成20年2月15日

## 【情報提供票より】(19年12月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年5月12日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 7人、非常勤 1人、常勤換算 7.8人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	---------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,100円			

### (4) 利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	永康病院、小野歯科医院、富士クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、観音寺のメイン通りに面した2階建ての2階部分にあり、まるで南欧のような外観で木のぬくもりが感じられ、食堂とリビングには天窓があり、自然光が入り、広々している。職員は、利用者が思い思いに自然体で安心して暮らせるようサポートしている。朝、昼、夕とも職員と利用者がお互いに役割分担し、助け合いながら手作りの家庭料理を作り、一緒に食事を楽しみ、栄養バランスにも配慮している。医療面では母体である富士クリニックとのサポート体制があり、利用者、家族、職員共に信頼をよせている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価後、管理者、計画作成担当者共に変わっているが、改善課題のケアマネジメントでは全体会で話し合うようになり、月1~2回開いている。市との連携、地域の人達の交流は、運営推進会議を通じて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の半分のメンバーが変わった後で、皆で話し合いの時間がとれなかったため、管理者一人で取り組んでいる。次回は、職員全体で取り組む予定であり、今後に期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>委員は家族、利用者、地区自治会長、有識者、地域包括支援センター職員、市職員等で、グループホームでの行事報告、入退居報告などを行い、ボランティア等のお願いは委員の地域のメンバーに相談しているが、なかなか難しい。現在、市で介護サポーターを養成しているので、平成20年3月より介護サポーターの受け入れを期待している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置したり、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりや声かけを心がけているが、今のところ具体的な苦情は出ていない。今後、苦情等が出たときは、速やかに誠意をもって対応する用意がある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の行事に参加している。また、地元の中学生の職場体験を受け入れている。運営推進会議を通じて自治会、老人会との連携を図っているが、常に地域の理解を得るように努め、さらに地域での支えあい、連携の推進を進めることが期待される。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成16年5月の開設より「誠心」という理念で、事業者の意義、役割は理解されている。地域密着型サービスの意義、役割が理解され、地域生活を支えるための支援を理念に置いた事業所独自の言葉への置き換えがされていない。	○	今までの理念に加えて、「地域の中でその人らしい生活をするを支える」ことを職員全体で考えると共に、自分たちの言葉で分かりやすく、具体的なものを作っていくことが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は共有されており、日々の業務、ミーティング時に運営理念を確認している。日々の話し合いや確認で、業務内容の改善につながっている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域活動に参加している。運営推進会議での呼びかけで、昨年のクリスマス会に初めて有識者の参加があり、今後の広がりが期待される。また、地元の中学生の職場体験の場を提供している。	○	散歩の時には声かけをしてくれるが、馴染みの人や地域の人が訪ねて来てくれることはほとんどない。地域との交流を事業所にとって必要な時だけ行うのではなく、共に暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる活動や役割を担っていく努力が望まれる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価時の管理者、ケアマネージャーが交代しているが、ケアマネジメントではチームケアの会議として、全体会の内容を充実し、月1~2回開かれ改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、報告や話し合いが行われ、議事録も残されている。会議での活発な意見交換や検討事項が、あまり多くあがっていない。	○	運営推進会議のメンバーから情報収集し、助け舟を出してもらい、実りある会議となっていくことが望まれる。また、メンバーも地域に密着し、応援してくれる増員を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に行く機会があれば、市担当者に事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、相談や助言が得られる関係作りに取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的な連絡はとっていないが、個々に電話や手紙で報告している。面会時には管理者、ケアマネジャー、職員が家族に暮らしぶりを報告している。また、家族との繋がりを深めるために、ホームでの暮らしぶりの状況報告の工夫が望まれる。	○	利用料明細書を送付する時、利用者の状況を担当者やケアマネジャーで役割分担し、写真や健康状態、暮らしぶりを伝え、ホットな報告により、繋がりを深められるように期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置したり、面会時に家族から話を得られる雰囲気作りに配慮している。具体的な苦情は現在ないが、出てくれば速やかに対応する用意がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年、離職者が相次ぎ、利用者に迷惑をかけていることもあったが、現在は、職員が利用者により添って生活している。今後はこのようなことがないように、職員が定着できる環境作りに努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程では採用時研修、継続研修があげられているが、思うようにできていないのが実状である。職場内で気づいた際に指導を行い、日常の介護の中で実施されている。	○	運営規程であげられている研修の実現を期待する。要員の関係で大変とは思いますが、ホーム外のステップアップ研修の情報を把握し、回覧して、受講希望があれば誰もが参加できるよう体制作りが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネジャーは、他のグループホームとの交流の機会をもっている。他の施設からの見学もあるが、全ての職員が交流する機会をもっていないのが現状である。	○	職員が他のグループホームの見学や学習会の機会をもち、形式的ではなく、日々のサービスや書式等についても情報交換を行い、サービスの質の向上を目指すことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族で来訪可能な方には、入居前に見学してもらっている。また、来訪できない利用者には訪問し、説明を行っている。家族の意見を聞いたり、協力してもらいながら、徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に話したり、考えたり、楽しんだりしている。利用者から可愛がってもらったり、教えられることもある。利用者の笑顔がみたいので、笑顔を引き出せるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望は、日々の会話や行動、表情からの把握に努めている。利用者の意向がつかめない時は、面会時に、特に、家族からの情報を得て、対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や家族からの意見を聞き、反映させている。申し送りやカンファレンスにおいて、話し合いをもった内容を介護計画に活している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3か月ごとに見直しをしている。見直し以前に対応ができない変化があったときは、家族や利用者の要望を取り入れて、関係者と協議の上、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助等で、家族ができない時は要望に沿った支援をしている。母体医療機関の医師が24時間対応してくれており、受診や入院の回避等、利用者と家族の状況に応じて、柔軟な支援を期待している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望するかかりつけ医とのつながりを尊重している。家族の付き添い受診を原則としている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者のなかには重度化の方も多くなり、利用者の希望や家族の意向を聞き取り、主治医や職員とカンファレンスを開き、対応している。家族に認識してもらう必要もあるが、事業所としての指針は作成されていない。	○	終末期ケアの方針についてのマニュアルがあれば、統一した対応ができると思われるので、今後の取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけ等は、利用者の誇りやプライバシーを大切にした対応である。また、誘導や支援の対応は、常に管理者からの指導が徹底しており、日々、職員同士が気をつけるよう意識づけしている。記録の閲覧、個室の見学等にも配慮がうかがえる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者が自分らしく過ごせるように、職員の見守りと工夫の中で自由に過ごせられており、居室にいる時間は少なく、大部分がリビングで過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりのできること、得意なことを考え、役割をもってもらい、利用者と職員が協働で、料理、食事、片づけを行っている。朝、昼、夕食ともに手作りである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や入浴回数は利用者本人の希望に沿っているが、主に日中入浴を行っている。安全な入浴介助を行い、入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編物、習字、家庭菜園の収穫、食事の準備、片付け等の役割をもっていただき、生活に張り合いが感じられる。お願いや感謝の言葉を添えて、一人ひとりにあった支援がうかがえる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	祭りや花見見学、ドライブ等を行っているが、職員の要員の関係と朝昼夕の手の込んだ食事作りで時間がとられ、時間的な余裕がないため、利用者の希望に沿った外出支援が日課までには至っていない。	○	外出は身体機能の低下予防と心身の活性化につながるため、ボランティアの協力を得て、日常的な外出ができる支援体制づくりが望まれる。三食とも、利用者と共に食事作りをするのはグループホームのモットーではあるが、時間的に要員の考慮が必要だと思われるので検討して欲しい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで見守る方法をとっており、通るとチャイムが鳴ることで安全に配慮している。利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声をかけ、一緒についていく等、安全面に配慮して、自由な暮らしを支えるよう取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作り、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。運営推進会議で地域の方への協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は担当者が作成し、栄養バランスは栄養士の指導を受けている。栄養摂取や水分確保については個人記録を利用し、利用者一人ひとりの状況を把握して、習慣に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花が生けられている。壁には利用者の作品や行事の写真が掲示されている。テレビのつけ通しもなく、雰囲気にあった有線をかけたり、カーテンや照明で明るさを調節している。リビングの上は天窓で開放感がある。また、机の配置等にも工夫が見られ、利用者は落ち着いてゆったりと生活している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前後に、家族の方に馴染みの物が大事なことを説明するが、持参されていない利用者もいる。タンスは準備されており、ベッドや畳を利用する人などは、好みによりしつらえている。居室には写真、人形等の小物が置かれている。また、編物が好きな人の居室は作品でいっぱいである。		